

教養科目			外国語学部				2026年度 カリキュラムマップ									
教養科目のDP(ディプロマ・ポリシー)																
自ら学ぶ力	DP1	知識・技能	豊かな教養と確かな専門知識・技能を身につけている。													
	DP2	情報の活用	目的に応じて情報を収集し、それを活用できる力を身につけている。													
	DP3	主体的な学びと論理的な思考	科学的、論理的な思考力と創造力を持ち、主体性をもって自ら学び続けることができる。													
生きぬく力	DP4	コミュニケーション・表現力	多様性を尊重し、共に生きるためのコミュニケーション能力と表現力を身につけている。													
	DP5	グローバルな視野と地域貢献活動	グローバルな視野と国際感覚を持って、地域社会で積極的に活動できる。													
	DP6	課題解決力	困難に立ち向かい、知識を活かして「知恵」とし、課題を解決して社会を生きぬく力を身につけている。													
信じられる能力を	DP7	自己効力感	知的好奇心を持ち、自ら学ぶ姿勢を身につけ、社会に対して自身の能力を発揮したいと意欲に溢れることで大学生活の中で自信をつけることができ、自らの可能性を信じてチャレンジできる。													
◎:科目の到達目標が該当のDPに直結する科目(100%) ○:科目の到達目標が該当のDPに関わる科目(70%) △:科目の到達目標が該当のDPに少し関わる科目(30%)																
授業科目 ◆は必修		単位数	配当年次	履修期	主要授業科目	授業概要(素案)	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7			
人間力育成科目	◆ きびこく学	1	1	春	○	順正学園及び吉備国際大学、またキャンパスのある地域の歴史・文化・社会の特色や課題について多角的に学び、吉備国際大学の学生としての知的基盤を培う科目である。この科目は、吉備国際大学の教育目標である「地域創成に実践的に役立つ人材を養成する」教育への序論として位置づけられる。	◎	△	◎	△	◎	◎	◎			
	◆ SDGs概論	1	1	春	○	2030年までの国際目標である「持続可能な開発目標SDGs」について、その背景や目的、実際にどのような取り組みが行われているかを学ぶ。そして、学生自らがその実現に向け、何ができるか、また何をしなければならぬかを考え、実行しようとする能力を身につける。	△	○	◎		◎	◎				
	◆ グローバルスタディーズ入門	2	1	春または秋	○	社会科学分野の基本概念を学ぶことを通じて、基本的な世界の常識を学びつつ、日本人としてのアイデンティティを確立することを目指す。具体的なイシューを題材とし履修者で議論し、問題解決型学習の実践を行なう。	○		◎		◎	◎				
	◆ 課題解決演習	2	1	秋	○	これまでに学んだ各地域の現状・課題、SDGsに関する目標・課題について、それぞれ解決策を模索することで、社会に積極的に貢献しようとする心や姿勢を養うことを到達目標とする。具体的には、グループごとに課題とするテーマを設定し、テーマに沿った情報を調べ、どのような手法であれば課題が解決へのアプローチを検討を行う。以上の能動的学習経験により、課題解決のために必要な一連のプロセスを修得する。		△	△	○	○	◎	◎			
キャリア教育科目	◆ キャリアデザインⅠ	2	1	春	○	この科目では、社会的自立と職業的自立にむけて、自分の生き方・働き方を計画(キャリアデザイン)し、実行できる人間力と社会人意識の基礎を身につけることを目標に、社会が求める人間像(自主性、責任感、教養、分別、コミュニケーション力)について考え、自分自身を知り目標をもって実行していく力を習得する。 具体的には、合同授業で、社会人としてのキャリア形成に必要な知識等を理解し、学科単位の授業では、各学科が目指す人材像について深く学び、資格取得や卒業後の進路選択に向け、社会人となるための基礎を築く。キャリアポートフォリオを活用し、目標設定と振り返りにより卒業時を見据えた効果的な授業を行う。			◎	○		△	◎			
	◆ キャリアデザインⅡ	1	2	春	○	自身の長期的なライフプランを考え、進路選択に向けて必要な情報収集をするとともに、それを活用し職業・企業理解に必要なスキルを身につける。同時に、2年次の目標を設定し、活動記録の入力、振り返りなどキャリアポートフォリオを作成するとともに、大学生として必要なマナーや、就職活動や実習に向けての心構えなどあわせて身につける。		△	◎	○		△	◎			
	◆ キャリア実践Ⅰ	1	3	春	○	社会人として必要な自己表現力などとともに、就職活動に必要なスキルを身につけ、自身の「キャリアプラン」を実現するための方法を学ぶ。 具体的には、就職先となる企業や施設の研究、また就職活動の手法(エントリーシート・履歴書、面接対策等)を就職活動の流れに沿って実践的に学ぶ。また、社会や就職活動で必要な会話術、面接、グループディスカッションの場面での自己表現力の育成も合わせて行う。実際に企業見学やインターンシップにも参加する。		○	○	○		○	◎			
	キャリア実践Ⅱ	1	3	春		「キャリア実践Ⅰ」に引き続き、就職活動に必要なスキルや能力の向上を図る。就職活動に必要なエントリーシート・履歴書の書き方、面接対策、試験に多く用いられるSPI対策、キャリアポートフォリオの就活への活用など、就職活動に必要な就職活動に実践的に役立つ内容を学び、実行する。		○	○	○		○	◎			

授業科目 ◆は必修		単位数	配当 年次	履修期	主要授 業科目	授業概要(素案)	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7		
数理・情報活用科目	◆ 情報活用	2	1	春	○	高校までに習得したコンピュータリテラシーをもとに、入学してから半期の間で、大学生に必要なとされる基本的なコンピュータスキルを身につけることを到達目標とする。 コンピュータ基本操作および基礎的アプリケーションソフトの利用をおこなえるように学習し、大学でITを活用した効率的な学習を行うための基礎知識を習得する。	○	◎	△						
	数理・データサイエンス・AI基礎	2	1	秋		今後のデジタル社会において、数理・データサイエンス・AIを日常生活、仕事等の場で使いこなすことができる基礎的素養を身につける。基礎編は、数理・データサイエンス・AIリテラシーレベルモデルカリキュラムで示されている、「導入(社会におけるデータ・AI利活用)」「基礎(データリテラシー)」「心得(データ・AI利活用における留意事項)」で構成される。	○	◎	△			○			
	数理・データサイエンス・AI応用	2	2	春		今後のデジタル社会において、数理・データサイエンス・AIを日常生活、仕事等の場で使いこなすことができる基礎的素養を身につける。応用編は、数理・データサイエンス・AIリテラシーレベルモデルカリキュラムで示されている、「基礎(データリテラシー)」「選択(オプション)」で構成される。 数理・データサイエンス・AI基礎の単位取得が履修の前提である。	○	◎	△			○			
言語教育科目	外国語	中国語Ⅰ	2	1	春		中国語の基礎的な文法や発音、日常的によく使われる例文などを学び、中国語による初歩的なコミュニケーション技能の修得を目標とする。また中国語を通して、中国の社会、文化、歴史、慣習などの背景を学び、日本と異なる地域の文化や社会に対する理解を深める。	◎		◎		◎			
		中国語Ⅱ	2	1	秋		「中国語Ⅰ」に引き続き、中国語の基礎的な文法や発音、日常的によく使われる例文などを学び、中国語による初歩的なコミュニケーション技能の修得を目標とする。また中国語を通して、中国の社会、文化、歴史、慣習などの背景を学び、日本と異なる地域の文化や社会に対する理解を深める。	◎		◎		◎			
		フランス語Ⅰ	2	1	春		フランス語の基礎的な文法や発音、日常的によく使われる例文などを学び、フランス語による初歩的なコミュニケーション技能の修得を目標とする。またフランス語を通して、フランスの社会、文化、歴史、慣習などの背景を学び、日本と異なる地域の文化や社会に対する理解を深める。	◎		◎		◎			
		フランス語Ⅱ	2	1	秋		「フランス語Ⅰ」に引き続き、フランス語の基礎的な文法や発音、日常的によく使われる例文などを学び、フランス語による初歩的なコミュニケーション技能の修得を目標とする。またフランス語を通して、フランスの社会、文化、歴史、慣習などの背景を学び、日本と異なる地域の文化や社会に対する理解を深める。	◎		◎		◎			
		ドイツ語Ⅰ	2	1	春		ドイツ語の基礎的な文法や発音、日常的によく使われる例文などを学び、ドイツ語による初歩的なコミュニケーション技能の修得を目標とする。またドイツ語を通して、ドイツの社会、文化、歴史、慣習などの背景を学び、日本と異なる地域の文化や社会に対する理解を深める。	◎		◎		◎			
		ドイツ語Ⅱ	2	1	秋		「ドイツ語Ⅰ」に引き続き、ドイツ語の基礎的な文法や発音、日常的によく使われる例文などを学び、ドイツ語による初歩的なコミュニケーション技能の修得を目標とする。またドイツ語を通して、ドイツの社会、文化、歴史、慣習などの背景を学び、日本と異なる地域の文化や社会に対する理解を深める。	◎		◎		◎			
	日本語(留学生専用科目)	◇ 日本語ⅠA(文法)	2	1	春	○	日本語能力試験N2合格を目指し、文法・文字・語彙を中心に学ぶ。N2レベルの言語知識(文字・語彙・文法など)の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。	◎	△	◎	◎				
		◇ 日本語ⅠA(読解)	2	1	春	○	日本語能力試験N2合格を目指し、読解を中心に学ぶ。N2レベルの読解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。	◎	△	◎	◎				

授業科目 ◆は必修		単位数	配当 年次	履修期	主要授 業科目	授業概要(素案)	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7		
言語教育科目	日本語（留学生専用科目）	◇ 日本語ⅠA(聴解)	2	1	春	○	日本語能力試験N2合格を目指し、聴解を中心に学ぶ。N2レベルの聴解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。	◎	△	◎	◎				
		◇ 日本語ⅠB(文法)	2	1	秋	○	日本語能力試験N2合格を目指し、文法・文字・語彙を中心に学ぶ。N2レベルの言語知識(文字・語彙・文法など)の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。	◎	△	◎	◎				
		◇ 日本語ⅠB(読解)	2	1	秋	○	日本語能力試験N2合格を目指し、読解を中心に学ぶ。N2レベルの読解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。	◎	△	◎	◎				
		◇ 日本語ⅠB(聴解)	2	1	秋	○	日本語能力試験N2合格を目指し、聴解を中心に学ぶ。N2レベルの聴解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。	◎	△	◎	◎				
		* 日本語ⅡA(文法)	2	2	春		日本語能力試験N1合格を目指し、文法・文字・語彙を中心に学ぶ。N1レベルの言語知識(文字・語彙・文法など)の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中上級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。	◎	△	◎	◎				
		* 日本語ⅡA(読解)	2	2	春		日本語能力試験N1合格を目指し、読解を中心に学ぶ。N1レベルの読解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中上級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。	◎	△	◎	◎				
		* 日本語ⅡA(聴解)	2	2	春		日本語能力試験N1合格を目指し、聴解を中心に学ぶ。N1レベルの聴解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中上級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。	◎	△	◎	◎				
		* 日本語ⅡB(文法)	2	2	秋		日本語能力試験N1合格を目指し、文法・文字・語彙を中心に学ぶ。N1レベルの言語知識(文字・語彙・文法など)の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中上級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。	◎	△	◎	◎				
		* 日本語ⅡB(読解)	2	2	秋		日本語能力試験N1合格を目指し、読解を中心に学ぶ。N1レベルの読解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中上級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。	◎	△	◎	◎				
基礎教育科目	社会の理解	日本国憲法	2	1	春 または 秋		日本国憲法における基本的論点を、判例やニュースを織り交ぜながらできるだけ平易に解説すると同時に、日本国憲法の将来を自分で考えるために必要と思われる情報を提供する。「人権」について理解を深める。 主権者として必要とされる日本国憲法の知識を身につけ、さらに憲法改正につき論理的に自己の考えを述べるができることを目指す。「人権」について正しく理解し、快適な社会づくりに貢献できることを目指す。	◎		◎	○				

授業科目 ◆は必修		単位数	配当年次	履修期	主要授業科目	授業概要(素案)	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
基礎教育科目	社会の理解	経済学	2	1	春 または 秋		私たちの暮らしの中の経済の仕組みや経済活動について学び、大学生として必要とされる経済学の基礎を身につける。 経済学のすべての分野に共通する理論分野であるミクロ経済学では、個々の消費者の行動や個々の消費者の行動や企業の行動に関する分析をもとに、価格メカニズムについて分析していく。具体的には経済学の考え方、需要と供給、価格弾力性、市場の構造と価格分析、公共財と共有資源問題などに関する基礎的知識を修得する。なお、豊富な事例を取り上げ、現実経済問題に関する理解を深める。	◎		◎				
		社会学	2	1	春 または 秋		社会学は我々にとって身近な「社会」を扱う学問である。そのため、本講義では、「社会学を理解する、覚える」のではなく、「社会学を応用する力」を身につけることまでを目標とする。まず最初に基礎的な社会学の理論、社会学的な分析の方法を身につけた上で、人口、家族、地域、エスニシティ、環境、医療、福祉、産業、労働など、様々なテーマを挙げ、各事例に対して、社会学的なアプローチから考察を加える。	◎	△	◎	△	△		
	人間形成	哲学	2	1	春 または 秋		哲学の基本的な知識、哲学思想の流れをつかみ、代表的な思想家の考え方とその背景を学ぶ。哲学とかかわりの深い倫理学・宗教学についての基礎も合わせて学ぶ。 古代ギリシャにおける哲学の誕生や初期の展開、プラトンやアリストテレスを通じての哲学の確立、ヘレニズム期の哲学、古代末期の哲学とキリスト教といったことを、ギリシャ世界の拡大と変容、ヘレニズム世界の成立、ローマによる政治的統合といった時代背景の中で理解する。また西欧世界の成立と発展といった文脈の中で、自由学芸、哲学、神学の関係や、諸科学の成立と哲学の変容を理解する。	◎		◎	△			
		心理学	2	1	春 または 秋		心理学とはどんな学問かを知ることがテーマである。心理学は心の働きについて科学的に研究していく学問である。人が生活している環境からいかに情報を取り入れ、蓄積し、利用するのか、あるいは、いかに人間関係のなかで適応的に生きているのかなどについての学びを通して、心理学のおもしろさに触れ、心理学の基礎的な考え方を理解する。	◎		◎	△			△
		文章力の基礎	2	1	春 または 秋		大学生活では、高度な授業内容を理解し、専門書を読み、発表資料・レポート作成を行い、それを発表する能力が必要となる。本講義では、そのために必要な日本語力の養成をめざし、学生が、日本語の円滑な運用に必要な重点項目を毎回順番に学修することにより、確実な日本語力を身につけることを到達目標とする。	◎		◎	○			
		生涯スポーツ論	2	1	春 または 秋		少子高齢社会を生きる現代人にとって「健康」がもつ意味が多様化していることを踏まえ、「スポーツ」が果たす役割に着目し、「健康づくり」「健康増進」の視点から論ずる。 これらを踏まえ、各年代に応じたスポーツのあり方、また生涯を通したスポーツへの親しみ方を理解した上で、生涯にわたって豊かな生活を送るための取り組みについて講義する。	◎		○	○			
	生涯スポーツ実習	1	1	春 または 秋		様々なスポーツ種目を通して、スポーツの楽しさと健康増進の効果を理解し、生涯にわたりスポーツに親しみ、健康的な生活を送ろうとする態度と知識を習得する。	△			◎				
	自然科学	数的理解	2	1	春 または 秋		迅速かつ的確な数的理解力の育成をテーマとして、課題に含まれる諸要素と関係性を捉え、適宜情報収集しながら課題解決の方針を見つけ、結果を導き出す力を身につける。	◎	◎	◎			△	
		化学	2	1	春 または 秋		基礎的な化学の知識の確認・修得に重点におき、身のまわりの現象や物質などを取り上げ授業を行う。将来の種々職業や生活に役立つ化学的な知識を修得する。	◎		◎				
		生物学	2	1	春 または 秋		生物の基礎ともいえる生態、細胞や遺伝などに加え、人の健康に深く関係する生活習慣病などの幅広い知識を習得し、生物現象を広く正確に把握できる。 地域における森や植物、河川や水生生物の学習、更に海と沿岸生物、魚類生態などの諸分野の幅広い生物生態学の知識を学ぶ。加えて生物学と医学、細胞・遺伝などの基礎生物学を学び、それらをもとに老いと生物学、ヒトの一生と健康な生活などの基礎医学の諸分野、また再生医療や環境問題などこれからの生物学に関する広範囲の知識を習得する。	◎		◎		△		
環境科学		2	1	春 または 秋		現在、地球上では近未来を危ぶむ種々の重大な問題(地球温暖化、オゾン層の破壊、環境ホルモン等)が生じている。我々にとって種々のレベルでの環境状況を正しく把握し、また将来生じると予想される問題を予見し、先見の問題意識をもって対応をすることが重要である。本講義ではこれらに関連する問題をDVD映像などにより理解し、その対策について考え、地球環境を科学的に理解し論理的に思考できるようになることをテーマとする。	◎		○		△	△		
							◎	30	4	32	13	9	4	6
							○	3	2	2	7	1	0	0
							△	2	16	4	4	3	4	1
							合計	35	22	38	24	13	8	7

学部名		外国語学部	学科名	外国学科	2026年度 カリキュラムマップ												
外国学科のDP(ディプロマ・ポリシー)																	
外国学科では、本学科の課程を修め、学則に定める卒業に必要な単位を修得し、外国と日本に関する幅広い教養を培い、高度な英語コミュニケーション能力と国際ビジネスなどの専門的知識を修得してグローバル社会の発展に貢献できる人材として、下記の力を身につけた人に対して学位を授与します。																	
自ら学ぶ力	DP1	知識・技能	自ら学び、豊かな教養を身につけ、人間性の涵養を図る。日本の文化・歴史・芸術などに関する知識を身につけている。また、国際教養・グローバルビジネスなどの専門知識、人間関係の築き方およびリーダーシップの取り方を理解している。そして、諸外国の人に対して英語でそれらを説明できる能力を有している。														
	DP2	情報の活用	国内外において過去から伝えられてきた有形・無形の情報を収集し、現代に活かすことができる。マスメディアやインターネット等で収集した情報のうち有用なものを吟味して、仕事や研究に活用する力を身につけている。また、多様な人々との繋がりの中で、自分および周囲の人々、物事との関係性を理解できる。														
	DP3	主体的な学びと論理的な思考	日本の文化・歴史・芸術などに関する知識や国際教養・グローバルビジネスなどの専門知識について、主体性をもって深く探求し、因果関係などを把握する力を身につけている。科学的かつ論理的に考え抜く力と創造力を持っている。また、海外の人々に自分と自国について自信を持って語り、失敗を恐れず目標に向かってチャレンジし続ける意欲を持っている。														
生きぬく力	DP4	コミュニケーション・表現力	外国のあらゆる地域においても他者を尊重し、英語で正しく自国と自分とを語ることができるコミュニケーション力と自己表現力を備えている。														
	DP5	グローバルな視野と地域貢献活動	留学や異文化体験によってグローバルな視野と国際感覚を身につけている。海外の国や地域において他者を尊重して英語で正しくコミュニケーションを取ることができる。国内外における地域貢献活動やボランティア活動で、地域の人びとと共感・協調しながら積極的に活動できる。														
	DP6	課題解決力	日本と世界を取り巻く社会問題と自己の生活の中にある諸問題を発見し、主体的に解決する行動力を持っている。また周辺のコミュニティの課題を特定し、コミュニティメンバーと共に課題解決できる力を身につけている。演習科目では集団活動や共同研究を通じて共に学び、共に取り組む姿勢を修得する。世界を舞台に活動している企業や民間団体などでも積極的に行動できる能力と社会を生きぬく力を身につけている。														
可能性を信じる力	DP7	自己効力感	専門諸科目や演習などについて、知的好奇心を持って自ら学ぶ姿勢を身につけている。自ら課題を発見し、その解決に向けた計画立案、実行、評価を行うことを通して、自らの可能性を発見することができる。これらの体験から自己効力感を得るとともに、これらを繰り返し、さらなる自己効力感を高めていくことができる。														
	DP8	傾聴力	相手の話に耳を傾け、話の内容を理解し、相手の意見や考えを受け入れる姿勢を身につけている。文化・習慣の相違やあらゆる事象によって、個々人の意見や考えは異なることがある。グローバル化や多様化が進む社会において、相手を尊重し協同する力の涵養が求められている。これによって、より良い人間関係を構築することができる。														
◎:科目の到達目標が該当のDPIに直結する科目(100%) ○:科目の到達目標が該当のDPに関わる科目(70%) △:科目の到達目標が該当のDPに少し関わる科目(30%)																	
授業科目		◆は必修	単位数	配当年次	履修期	主要授業科目	到達目標（授業内容を含めわかりやすく記入）	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8		
専門教育科目群	ジャパニスタディ	◆ 生き方	2	3	3前	○	「先達に学ぶ、人生のより良い『生き方』」をテーマとし、これまで日本を創ってきた人々、豊かで平和な社会を築いてきた人々の＜生＞の声を聞き、学生一人ひとりが、この国や社会のためにできることは何か、また自らが幸福な人生を送るために何をすればよいのか…等、それぞれが自分のあるべき将来について考える。そうすることで、今の自分を見つめ直すことができるようになる。また、自分の＜志＞を確認できるようになる。	◎	△	△	○	◎	△	△	◎		
		日本のことば	2	1	1前	○	日本のことばでは、社会言語学的な視点から日本語の言語としての特徴や日本人の特性について理解する。その理解を通して、学生は日本人が長い歴史の中で培ってきた言語感覚について理解を深めるとともに、その特性を教授することができるようになる。また、日本語を母語としない人に日本語を教える教員を養成するために必要とされる「言語政策とことば」「日本語の構造」(日本語分析、音韻・音声体系、文字と表記、形態・語彙体系、文法体系、意味体系、語用論的規範など)の内容についても理解する。	◎	○	○					◎		
		日本の芸術	2	1	1前		国際交流の場面でもよく話題にあがる茶の道と関連する香・庭・花・道具について歴史的な背景と現代の作法などを学び、外国の人々に伝える場面において自ら考え、行動に結びつけるための能力を身につける。英語力がつけば、本講義で身につけたことを英語で表現できるようになる。具体的には、本講義を単位修得したのち、2年次秋学期には英語で本講義で得た知識を外国の人々に説明できるようになることを到達目標とする。	◎	○	◎	○	◎	○	◎	◎		
		日本の歴史	2	2	2後		我々は、高度に発達しつつも、なお不安定な現代社会に生きている。この混沌として不確実な社会の中で生活していくには、一定の指針を持たなければならない。茫洋たる大海に船を発進させるとき、高性能で堅牢な羅針盤が必要となる。そこで、歴史を正しく、しかも貪欲に学習してほしい。吸収した知識を有効に活用していけば、羅針盤は自ずと手に入るであろう。歴史はそれ自体そっくり繰り返しはしない。しかし、過去を真剣に吟味することによって、私たちは啓発的な遺産や教訓に目を開かされることになる。	○	△	○	○	△	○	○	○		
		日本の経済	2	2	2後		テーマ:世界との関わりで成り立つ「日本の経済」について 到達目標:現代日本の経済は日本だけでなく世界経済との関わりでプラスもマイナスの成長も成り立っている。 日本の経済というと日本の社会経済の現状や成立のみを理解すればよい訳ではない。ただ、やはりそうした中に日本の独自性もまた見られるのも事実である。そこで、現代経済の現状を見つつ日本の社会経済を論じながら世界の中にあることを学生は理解できる。	◎	○	◎	◎	◎	○	○	○		
		クールジャパン論	2	2	2前	○	近年の日本文化に対する海外からの強い関心を様々な角度から捉え、その影響を考える。また、外国には見られない独自の日本の文化や景観を再発見し、情報発信の方法を探るとともに、日本語、英語の両言語で発信できるようにする。	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎		
		日本論ージャパノロジー	2	3	3前		「日本」を対象として論じようとするとき、客観的に観察する態度は不可欠である。受講者が日本という対象を論じるべく、客観的に日本を観察する態度を身に付けることにある。授業では内外の他者の日本論を概観するが、受講者に特定の事象を提示して考察してもらうこともある。学生自身の日本観を持ち、日本論を展開できる能力を身につけることを到達目標とする。	◎	○	○	△	○	△	○	◎		

授業科目 ◆は必修			単位数	配当 年次	履修期	主要授 業科目	到達目標 (授業内容を含めわかりやすく記入)	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8
		日本文化論	2	3	3前	○	1. カルチュラルスタディーズの観点から日本文化についてグローバルゼーションと関連づけて概説できる。2. ディスコース分析の理論枠組みから日本文化に関する伝統言説の多層性を理解できる。3. 近年の社会科学における日本研究 (Japanese Studeis) の動向を説明できる。	○	△	◎					
専門 教育 科目 目 群	英語学	英語学Ⅰ	2	1	1前	○	1. わたしたちが使っている現代英語は、どこから来て、どのように変化してきたのか探究し、理解できるようにする。2. 英語が発展してきた背景を学ぶとともに英語学的見地から、英語の音、スペル、文法の変化を理解しせつめいできるようにする。3. 様々な国で使われている多様な英語が存在することを理解し、受容する態度を身に付ける。	○	○	○	○			○	△
		英語学Ⅱ	2	1	1後		英語の基礎である文法・構文の知識を確実に定着させ、自己表現の為の土台をつくる。授業では、文法項目の復習、練習を通して、スピーキングの練習も行い、生活の中で実践的に応用できるようにする。	○	○	○	○			◎	○
		英語学Ⅲ	2	2	2前		英語の国際的普及がもたらした英語文化の多様化について理解し、それによって生じた新しい問題の提起と解決策を見つけ出していく。世界の英語に関する事情や情報を知り、英語による円滑なコミュニケーションの方法ができることを考えることができるようにする。	◎	○	◎	◎	○	○	◎	◎
		英語学Ⅳ	2	2	2後		日本語と英語の文法もしくは言語的特徴を比較し、それぞれの言語がどのように異なるかを考察する。英語を第2言語として使用する日本および日英語圏の人にとって、何が理解しやすく、また逆に難しいかについて学習する。	◎	△	○	◎	○	△	△	○
		英語文学Ⅰ	2	2	2前		文学理論と文体論を援用しながら、英語で書かれた代表的な児童文学を丹念に読み込むことにより、文学に特有な英語表現に親しみ、深い読解力の涵養と多様な文化の理解を促し、真の国際人としての文学研究の重要性を説く。	○	○	○	◎	○	○	○	◎
		英語文学Ⅱ	2	2	2後		文学理論と文体論を援用しながら、英語で書かれたキャノンと称される代表的な文学テキストを丹念に読み込むことにより、文学特有の英語表現に親しみ、深い読解力の涵養と多様な文化理解を促し、正しい文学批評の能力を身につけ、現代の国際人としての文学研究の重要性とその教育への応用を学ぶ。	○	○	○	◎	○	○	○	◎
		英語音声学Ⅰ	2	1	1前	○	Maximizing student English language pronunciation competency by ensuring thorough basic phonological understanding (and – in so doing – enhancing listening comprehension / aural competency). To make student pronunciation of English language words ‘sufficiently accurate’ and thus ‘correct’ – or at least ‘functional’ and thus ‘acceptable’ vis-a-vis 1 and 2-way oral communication and, especially, the reading of familiar and unfamiliar (typed / printed) common words (both aloud and silently, to oneself).	○		○	◎	○			○
	英語音声学Ⅱ	2	1	1後		From the viewpoint of supersegmental features, this course will focus on syllables, stress, rhythm and intonation etc. of English to learn natural-sounding English pronunciation. Building on progress made in Phonetics I, the aim of this course is to provide students with a greater, more comprehensive understanding and capability regarding the identificaion and ‘accurate’, ‘correct’ and / or ‘acceptable’ pronunciation of English language component speech-sounds / phonemes, as denoted by various – often non-obvious – combinations of alphabet letters.	○		○	◎	○			○	
	英語 コミュ ニケー シ ョ ン	英語リーディングⅠ	2	1	1前	○	This course will focus on reading comprehension with critical thinking and vocabulary practice. Through various exercises, we will try to develop reading skills and overall language ability. The aim is for students to understand the main idea and details of a text, summarize it in their own words, answer questions, and give their opinion on the topic.	◎	◎	◎	○	△	◎	○	△
		英語リーディングⅡ	2	1	1後		This course is designed to improve student ability to correctly understand diverse texts within short time frames. Students will thus be expected and helped to accurately and comprehenively pronounce, decipher, analyze, explain and appraise suitably challenging visual English. To enhance overall student Reading comprehension, major emphasis will be placed on ‘close’ inspection and scrutiny of employed words and resulting sentences. Accurate and thorough determination, and even mere gist ascertainment, necessitates rigorous inspection.	○		○	◎	○			○
		エクステンシブ・リーディング	2	2	2後		One goal of this course is to expose students to different types of reading material they may encounter in the real world. Students should become familiar with and understand different kinds of material, and have a high level of comprehension. Another goal is to help students become faster and more fluid readers.	◎	◎	◎	○	△	◎	○	△

授業科目 ◆は必修			単位数	配当 年次	履修期	主要授 業科目	到達目標（授業内容を含めわかりやすく記入）	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8
		メディア英語	2	2	2前		The main goal of this class will be to give students the chance to use English in various media platforms. Students will use the four English skills (reading, writing, listening, speaking) to present their ideas and interact with each other.	◎	◎	◎	◎	△	○	○	○
専門教育科目群	英語コミュニケーション	英語ライティングⅠ	2	1	1前	○	沢山の書く課題で学生がより多くの英単語をまんびと英語でより早く個人の意見及び感想を表現できるように目指します。	○	○	○	◎	◎	△	○	○
		英語ライティングⅡ	2	1	1後		This course will help students develop basic English writing skills, understand writing as a process, and build a foundation for becoming an independent writer. Students will learn paragraph structure, as well as how to express personal ideas clearly. We will have textbook, workbook, free writing, and online practice to help give students a variety of writing practice.	◎	◎	◎	◎	○	○	○	△
		プラクティカル・ライティング	2	2	2前		学生が増やした語彙いで日常生活、仕事、旅行などに出る色々な英語用紙か文書の完成ほうほうを身に着ける。	○	○	○	◎	○	○	△	○
		アカデミック・ライティング	2	2	2後		1. 海外研修や英語での学修にとって必要な言語的および文化的な英語の素養を習得できる。2. 大学生としてふさわしい知的水準の文章を英語で書けるようになる。3. 自らの見解を英語で明確かつ正確に表現できるようになる。		○	△	◎				
		◆ 英語オーラルコミュニケーションⅠ	2	1	1前	○	The objective of this course is to increase the capacity and willingness of students to express themselves in a reasonably articulate, correct and comprehensive, yet lucid and succinct manner. By the end of the course, students should be better able to communicate effectively and carry on general conversation about common topics, above all those familiar to them. This course should help students to attain up to and / or beyond CEFR A2 level competency.	○		○	◎	○			○
		◆ 英語オーラルコミュニケーションⅡ	2	1	1後	○	The goal of this class will be to develop confidence with conversation skills. Communicating with confidence means expressing yourself accurately, fluently, and appropriately. Students will do various speaking tasks in class to maximize speaking opportunities.	○	○	◎	◎	△	○	◎	◎
		英語オーラルコミュニケーション演習Ⅰ	2	3	3前		This course aims to improve student ability to participate effectively, creatively and confidently in authentic, real-life, everyday English language conversation, discussion and debate. Major emphasis will therefore – on a weekly basis – be placed on speaking for longer, extended periods of time (usually 5–10 minutes) about single assigned topics / issues, in order to foster greater levels of thoughtfulness, creativity, articulateness and expansiveness / elaboration.	○	◎	○	◎	○	◎	○	○
		英語オーラルコミュニケーション演習Ⅱ	2	3	3後		Intended primarily for those who complete 'English Oral Communication Exercises I', this course is intended for students who want to improve their ability to participate effectively, creatively and confidently in authentic, real-life, English language conversation, discussion and debate. Students will thus receive more advanced and demanding briefs, instruction and advice, and be constantly urged to always i) convey detailed and comprehensive information and ii) ensure efficient or 'optimal' vocabulary selection, syntax and sentence ordering, etc.	○	◎	○	◎	○	◎	○	○
		プレゼンテーション英語	2	2	2前		The main purpose of this class will be to help students learn to communicate information effectively through presentations. The focus will not only be on what you say, but how you say it. Students will learn techniques to become better, more interesting presenters, as well as the PowerPoint skills to making and using slides effectively. Attention will be paid to what is being said, but the focus of the class will be on how the information is presented both visually and verbally.	◎	◎	◎	◎	△	△	○	○
		ディスカッション英語	2	2	2後		社会問題と現象の物事について意見交換と説明ができる英語表現力と語彙を身につける。	○	○	◎	◎	◎	○	△	○
	アクティブラーニング	アクティブ英語Ⅰ	2	2	2前	○	The goal of this course is to make it possible to use vocabulary and basic expressions with high frequency and to use them in conversation. Extend non-verbal communication skills such as gestures through pairs or group activities with classmates. This course should help students to attain up to CEFR B1 level. This course will make it possible for students to better convey their thoughts in English about familiar, interesting and important topics and things. Students will also be able to learn more about basic cultural norms and manners of English speaking countries.	○	○	○	◎	◎			○

授業科目 ◆は必修			単位数	配当 年次	履修期	主要授 業科目	到達目標（授業内容を含めわかりやすく記入）	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8
		アクティブ英語Ⅱ	2	2	2後		日本または海外における様々な状況の中で、その場面に相応しい英語表現を使うことができる。また、国によって異なる英語に慣れ、理解し、対応することができるようにする。英語運用能力CEFR B1レベル以上を目標とする。	◎	◎	◎	◎	○		◎	◎
専門教育科目群	アクティブラーニング	インテグレイテッド・イングリッシュⅠ	2	3	3前	○	This course aims to give a wide variety of activities and help students use all their skills together in order to be a better overall communicator. Students will learn listening, speaking, reading, writing, viewing, and presenting skills to prepare them for success in academic and professional life.	◎	◎	◎	◎	○	△	◎	◎
		インテグレイテッド・イングリッシュⅡ	2	3	3後		少人数グループで様々な国の英語を聞き、その内容をメモし、他のグループメンバーと相談の上で、その英語の内容を口頭もしくは文章で再現(作り直し)する。(聞く、話す、読む、書く)の組み合わせで総合英語力を目指す。	○	○	◎	◎	◎	○	○	◎
		ビジネス英語Ⅰ	2	3	3前	○	リスニング、スピーキングを中心に、ビジネスの世界で必要とされる基本的な語彙、表現を学習し、使えるようにする。また、日常的に使うカジュアルな英語と、ビジネスの場で使われる丁寧な英語の違いを学び、様々なビジネスシーンにおいて実践できるようにする。	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎
		ビジネス英語Ⅱ	2	3	3後		ビジネスの世界で必要とされる英語運用力を養成する。様々なビジネスシーンや話題を取り扱った会話を聞いて、ビジネス英語特有の表現や語彙を身に付ける。ビジネス英語Ⅰで学んだビジネスライティングの基礎知識を使い、応用できるようにする。また、異なる文化の背景におけるビジネスの世界では、英語がどのように運用されているかを学び、授業で学習したことに基づいて会話、ディスカッションができる。	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎
		TOEICストラテジーⅠ	2	1	1後	○	英語力の向上とTOEICの問題の解き方に精通し、TOEICスコア500を目指す。TOEICテストの問題を使い、問題のパターンに慣れるようにする。リスニングとリーディングを中心に様々な基礎問題、応用問題で練習を重ね、スコアを伸ばす。	○	○	△				△	
		TOEICストラテジーⅡ	2	2	2前		While the focus of the course will be on improving the overall TOEIC test score, there will also be a focus on practicing general reading and listening skills, as well as grammar skills and test taking techniques. The goal is to not only improve reading and listening for the TOEIC test, but for daily use in the future.	◎	◎	◎	△	△	◎	◎	◎
		ラーニング・スキルズ	2	2	2前		英語の4つのスキル、リスニング、リーディング、スピーキング、ライティングの様々な学習ストラテジーを学び実践する。学生自身で目標設定、学習プラン、実行、自らの学習の振り返りをし、改善していくことができるようにする。	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	○
		リサーチ・スキルズ	2	2	2後		1. 研究方法(research methods)と研究方法論(research methodology)の多様性を理解し判別できるようになる。2. 実際の研究にとって適切なを選定できるようになる。3. 具体的な研究事例でリサーチ・スキルズをどのように用いるかを理解できるようになる。	△	○				◎		
国際教養科目群	グローバルスタディーズ	異文化理解	2	1	1後	○	テーマ:異文化を受信し、日本文化を発信することで、多文化共生の生き方をさぐる。 到達目標: 人、モノ、おカネ、情報が自由に世界を飛び回る時代。日本と異なる文化への理解が避けて通れない。同時に日本的なものを世界に伝えないと日本は世界の中で埋没する。自分自身の考えを常に国際社会の中でとらえ、判断できるようにすることを到達目標とする。その必要なスキルを獲得する。	○	◎	◎	◎	◎	○	○	◎
		グローバル人材論	2	3	3後		この講義では、どこでも活躍できる「グローバルな人材となること」をテーマとする。そもそも、グローバル人材とは何か?どのような資質、資格、経験を持った人材のことなのであろうか?どのような学修、経験を積みめばそのような人材になれるのであろうか。多角的に学修を進める。いくつかの分野で活躍している「グローバル人材」を外部講師として招聘し、いろいろな角度から講義をもらい、それをもとに全体ディスカッションを行なう。これらを通じて、自分なりのグローバル人材の姿を持つことを目標とする。また、英文履歴書が書けるようになる。	◎	○	◎	○	◎	○	○	◎
		グローバルスタディーズⅠ	2	3	3前		1. 芸術と文化について広い見識と教養を持てるようになる。 2. 西洋美術史に関連づけて美学の基本的な概念や用語を説明できるようになる。 3. 文化芸術の現代的な意義と機能について概説できるようになる。	◎	○	△					

授業科目 ◆は必修			単位数	配当 年次	履修期	主要授 業科目	到達目標（授業内容を含めわかりやすく記入）	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8
国際教養科目群	グローバルスタディーズ	グローバルスタディーズⅡ	2	3	3前		1. 国際関係の多層性と国際社会のアクターの多様性について理解できるようになる。2. 社会科学としての国際関係論の理論展開を概説できるようになる。3. 国際関係論の学際性を具体事例を用いて説明できるようになる。	△	○				◎		
		グローバルスタディーズⅢ	2	3	3前		国際政治経済学(International Political Economy通称IPE)に関する基礎的な理論をサーベイし、専門用語も含んだ英語による当該分野の理解力を深める。また、国際情勢について英語で議論できるよう、基礎的な知見を身につけ英語で専門性の高いディスカッションをうまくこなせるようになることを目指す。	◎	△	◎	○	◎	◎	△	○
		グローバルスタディーズⅣ	2	3	3後		1. 地球の生態系や環境に関するアカデミックな議論の展開について理解できるようになる。2. 地球環境の課題についてグローバルとローカルの視座の交差を理解できるようになる。3. エコロジー理論について概説できるようになる。4. 生命多様性の観点を育てるようになる。	△	○				◎		
		グローバルスタディーズⅤ	2	3	3後		学生は多文化教育論において、子どものための多文化教育の意味を理解することができる。日本では多文化の状況へ出会うことが、より当たり前となってきている。つまり、私たちの文化と他の文化との類似点と相違点について考える必要がある。学生は、多文化教育の知識と、子どもたちに多文化教育を提供することがいかに重要であるかを学ぶことができる。	◎		○	◎	◎	△	○	
	グローバルビジネス	グローバルスタディーズⅥ	2	3	3後		発展する国と発展しない国があるが、なぜそのようなことが起こるのであろうか？日本は世界第3位の開発援助国家である。なぜ日本は発展が遅れている、いわゆる開発途上国を支援するのであろうか？その支援をする理由と目的を多角的に考えてみる。国際益なのか、国益なのか？日本の復興経験からの視点では何ができるのであろうか？この講義・演習を通じて、日本のソフトパワーである開発協力について、その概念、歴史、手法などを学び、グループ・ディスカッションやプレゼンテーションを経験することにより、自分のことばで、そして、簡単な英語で、国際開発の重要性を語ることができることを目指す。	◎	△	○	○	◎	◎	△	◎
		日本の文化経済	2	3	3前		テーマ：日本には古くは「道徳経済」があった 到達目標：「日本の文化経済」を学ぶことは「地球の危機」に対応する倫理道徳と一体的な社会経済であることを理解する。 「日本の文化」は倫理道徳性という文化価値を核として成り立っており、それが「相手の立場に立つ」とか「他者を大切にすると」かの源泉だった。そして、これは日本が古くからSDGsの基盤となる文化価値を持っていたのだが、現在の日本人はそれを忘れていたので、今こそ思い出すべきである。	◎	○	◎	◎	◎	○	◎	○
		人と地域の社会学	2	3	3前		本講義では、われわれの生活の場としての地域が抱える社会問題を発見し、これらの課題について自ら解決できる思考力と行動力を養う。また、社会学的な視点から、なぜこれらの問題が生じているのか、その原因を探り、論理的思考を修得する。その上で、国内外で地域社会の再生に向け取り組み活躍している人物や営利・非営利組織について調べ、今後の研究や仕事に活用する力を身に付けることができる。学生自身、「自分の生まれ育った地域」の課題や現状を調べ、自ら考え問題解決の方法などを考えることを目指す。		◎	◎		○	◎	◎	△
		地域観光資源	2	3	3後		地域の魅力を知り、観光資源としての活用に関して学ぶことをテーマとして、地域の歴史、文化、風土、伝統、交通、経済、産業についての知識を修得して理解し、論理的に考える能力を身につけることを到達目標とする。	○	○	◎	○				○
		企業戦略マーケティング概論	2	3	3前		学科のディプロマポリシーに従って、マーケティングにおいて活用されるオペレーションズ・リサーチを取り上げる。ORを活用した市場戦略のおもしろさを理解する。到達目標は、経済の身近にある事象への問題意識が持て、初歩的な常識が身に付くことである。		◎	△					
		国際ビジネス論	2	3	3前		テーマ：賢い消費者に提供するサービス提供ビジネス 達目標：国際的なビジネス活動はサービスの時代であることを理解する。 誰もがお金も欲しいがゆとりやヒマも欲しい。否、生きがいがないと嫌だ。この思いは今や世界的に共通になりつつあり、ビジネス活動においても文化価値を考慮しなければならなくなってきた。しかも、近年は海外から日本の文化が注目されている。そこで、講義では国際化時代の日本におけるビジネス活動は文化価値のサービスとビジネス活動を分離してはならないことを、学生が理解し説明できることを目標とする。	◎	◎	○	◎	◎	○	○	○
		ビジネスの基礎知識	2	3	3前		ビジネスの基礎的・基本的な知識と技術を習得し、ビジネスの意義や役割について理解するとともに、ビジネスに必要な創造的な能力と実践的なスキルを育てることを目標とする。さらにマーケティングに関する知識と技術をし、マーケティングの意義や役割について理解するとともに、企業におけるマーケティング活動を計画的、合理的に行うスキルを身に付けることを目標とする。	◎	◎	○	○	◎	○	○	○
		貿易実務	2	3	3前		国際ビジネスの基礎的・基本的な知識と技術を習得し、国際ビジネスの意義や役割について理解するとともに、国際ビジネスに必要な創造的な能力と実践的なスキルを育てることを目標とする。本科目では国際ビジネスにおける、モノの国際間移動に係る貿易を中心とする。	◎	◎	○	○	◎	○	○	○

授業科目 ◆は必修			単位数	配当 年次	履修期	主要授 業科目	到達目標（授業内容を含めわかりやすく記入）	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8
		IT応用論	2	2	2後		外国学科のディプロマポリシーに従って、コンピュータを中心としたデータの受け渡しをテーマとして学習する。CAD・3次元コンピュータグラフィックスなどを使いこなし、データの相互有効活用ができるようになることを到達目標とする。		◎	△					
国際教養科目群	ビ ジ ネ ス バ ル	問題解決とシステム技法	2	3	3前		問題を発見し、分析する。解決策を探して解決に到る。簡単なことのように思えるが、筋道を立てて行うとなると案外、難しい。どのようにするか、そのコツを教えたい。これが本講義のテーマであり、目標であるが、だが、出来るようになるかと言えば、受講者の努力次第と言うほかない。すべての糸口になる問題発見にしたところで、誰でも発見できるわけではない。何事もないかのように見える日常の中で、「問題はないか」と問いつづける人にだけ問題は見えてくる。そうした姿勢を持てるようになることが、実社会から期待されていることであり、当科目の到達目標なのである。	◎	△	◎	△	△	◎	◎	△
	カル チャ ー サイ エ ン ス	専門日本語(科学)	2	3	3前	○	日本および海外における科学的事柄について学ぶことをテーマとして、談話理解と言語学習を含む言語理解の過程、言語の習得過程と学習ストラテジーを含む言語習得・発達に関する知識を修得して理解し、各事象を論理的に考える能力を身につけることを到達目標とする。	○	○	◎	○				○
		専門日本語(産業)	2	3	3前	○	「身の回りの物品の製造から供給、国土交通、ライフラインなど産業に関するニュースをメディアから見つけ、その中に使用されている語彙を日本語を学習している人たちにわかりやすく説明し、学習者らの日本語運用能力の向上をサポートできるようにする」を到達目標とする。	○	◎	◎	◎	○	○	○	◎
		専門日本語(IT)	2	3	3後	○	「IT関連の専門用語(日本語)について理解を深める」ことをテーマに、コンピュータ、オペレーティングシステム、アプリケーションソフト、ネットワークの基礎概念やセキュリティ保護の考え方などを理解することを到達目標とする。外国学科のディプロマポリシーに従って、外来語にも焦点を当て、また学習の題材として、プログラミング言語にも触れる。		◎	△					
		色彩の科学	2	2	2後		色彩に関する知識を身に付けることをテーマとして、この知識をもとに色彩について論理的に考える力を養うことを到達目標とする。	○	○	◎	○				○
		モノをはかる技術	2	3	3後		歴史的な背景や有用性などを書籍・学術論文・企業の説明資料などを通して理解する。『『はかる』技術を一般の人に説明できるようになる』を到達目標とする。	◎	○	◎	○	○	◎	○	○
		ロジカルシンキング	2	2	2後		自分の持っている情報や意見を言語によって明快かつ効果的に相手に表現し、伝達できる能力を養うことを到達目標とする。	△	△	◎	◎	○	○	○	○
		人間行動研究	2	4	4前		人間はいつも同じ事をしているわけではなく、行動は変化し発達する。ヒトの行動はその周囲の状況と深く関わっている。人間と環境の出会いに創発する行動という出来事を追うためには、周囲を含めて人間のふるまいをとらえる観察が必要となる。本演習では近年の行動科学、認知科学の知見を概観的に学ぶ。その上で、グループワークを通して、実社会で活用できる、人間の行動について研究する方法を学ぶ。	◎	○	◎	◎	△	◎	○	○
	実 習	インターンシップⅠ	2	2	2通年	○	就業体験を通じて社会人に向けての自己啓発力と自己教育力を養うことをテーマとして、企業が大学生に求める前に踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力を身につけることを到達目標とする。	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	○
		インターンシップⅡ	1	2	2通年	○	就業体験を通じて社会人に向けての自己啓発力と自己教育力を養うことをテーマとして、企業が大学生に求める前に踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力を身につけることを到達目標とする。	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	○
		インターンシップⅢ	2	3	3通年		就業体験を通じて企業が大学生に求めるスキルを身につけることをテーマとして、前に踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力を養うことを到達目標とする。	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	○

授業科目 ◆は必修			単位数	配当年次	履修期	主要授業科目	到達目標（授業内容を含めわかりやすく記入）	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8
		インターンシップⅣ	1	3	3通年		就業体験を通じて企業が大学生に求めるスキルを身につけることをテーマとして、前に踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力を養うことを到達目標とする。	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	○
国際教養科目群	実習	スタディー・アブロード事前指導	2	1	1後	○	2年次より開講の「スタディー・アブロードⅠ～Ⅳ」に向けての事前準備を行う。実際に海外留学、インターンシップ、ボランティア、に参加するため必要となる基礎知識、情報、技能を習得する。そして、十分に留学先・国状、大学や受け入れ先機関を理解し、積極的に留学計画をたて、有意義な留学体験ができるようになる。	◎	○	○	○	◎	○	○	○
		◆ スタディー・アブロードⅠ	4	2	2通年	○	「外国で学修活動をした、実践活動をした」をテーマとして、自国以外の国で授業を受けたり、様々な活動に参加したりする。到達目標は、以下のことができるようになることである。外国人に日本について語れるようになる。実践活動を自ら立案し、それを実行できるようになる。様々な異文化体験を通じて、他者の意見が聞けるようになる。また、国際人としての認識と知見を身につけて、自分の意見が言えるようになる。	○	△	◎	◎	○	○	◎	○
		スタディー・アブロードⅡ	6	2	2通年		「外国で学修活動をした、実践活動をした」をテーマとして、自国以外の国で授業を受けたり、様々な活動に参加したりする。到達目標は、以下のことができるようになることである。外国人に日本について語れるようになる。実践活動を自ら立案し、それを実行できるようになる。様々な異文化体験を通じて、他者の意見が聞けるようになる。また、国際人としての認識と知見を身につけて、自分の意見が言えるようになる。	○	△	◎	◎	○	○	◎	○
		スタディー・アブロードⅢ	6	2	2通年		「外国で学修活動をした、実践活動をした」をテーマとして、自国以外の国で授業を受けたり、様々な活動に参加したりする。到達目標は、以下のことができるようになることである。外国人に日本について語れるようになる。実践活動を自ら立案し、それを実行できるようになる。様々な異文化体験を通じて、他者の意見が聞けるようになる。また、国際人としての認識と知見を身につけて、自分の意見が言えるようになる。	○	△	◎	◎	○	○	◎	○
		スタディー・アブロードⅣ	6	2	2通年		「外国で学修活動をした、実践活動をした」をテーマとして、自国以外の国で授業を受けたり、様々な活動に参加したりする。到達目標は、以下のことができるようになることである。外国人に日本について語れるようになる。実践活動を自ら立案し、それを実行できるようになる。様々な異文化体験を通じて、他者の意見が聞けるようになる。また、国際人としての認識と知見を身につけて、自分の意見が言えるようになる。	○	△	◎	◎	○	○	◎	○
	演習・卒業研究	◆ 基礎演習Ⅰ	2	1	1前	○	外国学科の基礎演習Ⅰでは、大学での学びに必要な基礎力、大学生の心得、将来に向けての心構えなどを習得する。本演習では、講義や人の意見を聞く（聞く力）、本を読む（読む力）自分の意見を整理して話す（話す力）、書く（書く力）、の4つの力を習得する。また知的好奇心を持って自ら学ぶ姿勢を身につけることができる。2年生からはゼミに所属し、卒業研究に向けた準備が始まるが、その入り口として「学ぶ力」を学ぶと同時に、大学教師や仲間との接し方も学ぶ。		○	○				◎	◎
		◆ 基礎演習Ⅱ	2	1	1後	○	外国学科の基礎演習で、学生は大学での学び、大学生の心得、将来に向けての心構えなどを習得する。特に、基礎演習Ⅱでは、オムニバス形式で先生方の研究に関する話を聞き、自らの研究テーマについても考える。オムニバス講義や演習を通して、「聞く」、「読む」、「話す」、「書く」の4つの力を養うと同時に、自ら知的好奇心を持って情報収集やプレゼンテーションに取り組み、自ら学ぶ姿勢を身につける。2年生からはゼミに所属し、卒業研究に向けた準備が始まるが、その入り口として「学ぶ力」を身につける。		○	○				◎	◎
		◆ 演習Ⅰ	2	2	2前	○	外国学科の演習Ⅰでは、基礎演習で習得した大学での学びや心得を基礎に、大学生が身につけておくべき時事問題などの知識や見聞を広める。2年生からゼミに所属し、卒業研究に向けた第1ステップとして、日本や世界の生活、社会、経済などを取り巻く課題を理解し、自分の研究テーマを発見する論理的思考を修得する。また、これらについて適切に情報収集したり、文献を読んで整理し発表やディスカッションしたりすることができる。演習Ⅰでは、聞く、読む、話す、書くの4つの力に加えて、主体的な学びと論理的な思考、課題発見力、好奇心を持って自ら学ぶ姿勢を養う。	○	◎	◎		△	◎	◎	◎
		◆ 演習Ⅱ	2	2	2後	○	外国学科の演習Ⅱでは、演習Ⅰで学んだ内容などをもとに、卒業研究に向けた第2ステップとして、自分の研究テーマについて具体的に考え、研究を進めるための幅広い知識と多角的な視野を養う。自分の研究テーマについて適切に情報収集したり、文献を読んで整理し発表やディスカッションしたりしながら、主体的に研究を進める論理的思考力を身につける。演習Ⅱでは、聞く、読む、話す、書くの4つの力に加えて、主体的な学びと論理的な思考、課題発見力、好奇心を持って自ら学ぶ姿勢を修得する。	○	◎	◎		△	◎	◎	◎
		◆ 演習Ⅲ	2	3	3前	○	外国学科の演習Ⅲでは、演習Ⅱで学んだ内容などをもとに、卒業研究に向けた第3ステップとして、自らの研究テーマを見直し、知的好奇心と自ら学ぶ姿勢を持って主体的に研究を進める力を養う。また、自分の研究テーマについて適切に情報収集したり、文献を読んで整理し発表やディスカッションしたりしながら、自ら社会問題や課題を解決に導く力を養う。演習Ⅲでは、聞く、読む、話す、書くの4つの力を総合的に発揮する総合力、情報を活用する力、主体的な学びと論理的な思考、課題解決力の修得を目指す。	○	◎	◎		△	◎	◎	◎

授業科目 ◆は必修			単位数	配当 年次	履修期	主要授 業科目	到達目標（授業内容を含めわかりやすく記入）	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8
		◆ 演習Ⅳ	2	3	3後	○	外国学科の演習Ⅳでは、演習Ⅲで学んだ内容などをもとに、卒業研究に向けた第4ステップとして、自らの研究テーマを絞り込み、知的好奇心と自ら学ぶ姿勢を持って主体的に研究を進める力を養う。また、自分の研究テーマについて関連する文献をいくつか特定し熟読したり、テーマや関連する文献の論点をまとめ、発表やディスカッションを行ったりしながら、自ら社会問題や課題を解決に導く力を養う。演習Ⅳでは、聞く、読む、話す、書くの4つの力を総合的に発揮する総合力、情報を活用する力、主体的な学びと論理的な思考、課題解決力のさらなる修得を目指す。	○	◎	◎		△	◎	◎	◎
		◆ 卒業研究Ⅰ	2	4	4前	○	外国学科の卒業研究Ⅰでは、これまで演習科目で学んだ内容などをもとに、卒業研究を進め、本格的に論文執筆を始める。自分の研究テーマについて文献を読んで整理し、発表やディスカッションしたりする中で、演習科目の評価基準となる9つの力を修得し、総合的に発揮できるようになる。また、論文執筆や報告会を通して、論拠に基づいて、相手に分かりやすく書く文章力や説明力を修得する。	○	◎	◎		△	◎	◎	◎
国際教養科目群	演習・卒業研究	◆ 卒業研究Ⅱ	2	4	4後	○	外国学科の卒業研究Ⅱでは、卒業研究Ⅰで学んだ内容などをもとに、卒業研究を進め、卒業論文を完成させる。自分の研究テーマについて先行研究や関連文献を読んで整理しするだけでなく、発表やディスカッション、卒論執筆をする中で、演習科目の評価基準となる9つの力を修得し、総合的に発揮できるようになる。また、論文執筆や報告会を通して、論拠に基づいて、相手に分かりやすく書く文章力や説明力を修得する。研究規範を遵守した研究活動のもとで得た成果を卒業研究論文として発表することができる。	○	◎	◎		△	◎	◎	◎
教職関連科目		英語科教育法Ⅰ	2	2	2前		「英語教授法と授業計画案の作成」をテーマとし、英語教育に係る基礎理論を理解し、その指導法、教材、学習者、教師、評価に関する実施方法の習得を目標とする。	○		○	◎	△	◎	△	◎
		英語科教育法Ⅱ	2	2	2前		「英語教授法と授業計画案の作成」をテーマとし、英語教育に係る基礎理論を理解し、その指導法、教材、学習者、教師、評価に関する実施方法の習得を目標とする。	○		○	◎	△	◎	△	◎
		英語科教育法Ⅲ	2	3	3後		「日本の中等教育現場の教育指導」をテーマとし、日本の中等教育現場における多様な学習志向に対応できる教育指導力の構築と、時代の要請に応じた新しい指導実践力の習得を目標とする。	△		○	◎	○	◎	○	◎
		英語科教育法Ⅳ	2	3	3後		「日本の中等教育現場の教育指導」をテーマとし、日本の中等教育現場における多様な学習志向に対応できる教育指導力の構築と、時代の要請に応じた新しい指導実践力の習得を目標とする。	△		○	◎	○	◎	○	◎
		教育原論	2	1	1前		到達目標： 1. 教育の基本概念を理解し、適切に用いることができるようになる 2. 代表的な教育思想家の学習論・教育思想・社会観・子ども観を理解する 3. 近代公教育(学校)をはじめとする主要な教育制度の成立および変遷を理解する 4. 家庭、社会における教育について理解し、それをもとに学校教育の役割を理解する 5. 上記の学習を通じて教育の本質について理解し、今後の教育制度(学校など)の役割について自身の意見を持つ 授業概要： 教育の歴史を概括的に学ぶ科目である。この講義では歴史的事象もさることながら、社会が変動する中で子ども観・教育観・学習観がいかに変容し、それに伴い家庭教育、地域社会(共同体)の教育、学校教育がいかに変容していくのかを理解してもらいたい。その結果、多様な教育実践・制度の相互作用などを理解し、各自の教育に関する意見を構築できるようにしていく。 本講義は大きく6つの段階に分けて展開する。1・2回目では教育の基礎概念について理解するとともに家庭などにおける日常的(非組織的)な学びの在り方について触れる。その後、教育思想がどのような社会観・子ども観によって形成されるのかを古代・中世・近代・現代のそれぞれに区分し紹介する。特に近代公教育制度の成立については、学校教育の本質にかかわる事項であるので若干詳細に検討する。その後、特に1990年代後半以降の現代社会の在り方を考察し、現在教育という営為がどのように社会の課題と向き合い、新たな実践を生み出しているのかを考察する。	◎		○		△	△		
		教職論	2	1	1前	○	教職についての基礎的な知識(教職の歴史と社会的使命、教員の職務、教員養成と研修、服務規程、「チームとしての学校」の一員としての役割等)について理解するとともに、教員としての自らの適性について考えることを目標とする。	○		○	◎			△	○

授業科目 ◆は必修		単位数	配当 年次	履修期	主要授 業科目	到達目標（授業内容を含めわかりやすく記入）	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8	
教職 関 連 科 目	教育行政学	2	1	1前		到達目標： 1. 教育行政・公教育の原理、理念、作用及び仕組みを理解する 2. 学校、教育機関の目的を理解し、その目標をどのように達成しようとしているか理解する 3. 学校経営の組織体制及びマネジメント手法について理解する 4. 子どもたちをめぐる問題に対する制度的・経営的対応を理解する 5. 現在の教育改革及び行財政改革の基本的な方向を理解する 6. 子どもや社会の現状、行財政改革の現状などの正確な理解をもとに今後の教育行政・学校経営のあるべき姿について自身の意見を提示できるようにする 授業概要： 教育制度の理解を深める段階と教育制度の理解をもとに学校経営を理解することを目的としている。まず最初に公教育が存在する理由を「公共性」概念及び「公共財」概念を紐解くことにより明らかにする(第1回)。そのうえで現状の法制・機構・仕組みについて検討する。その後、教育行政の理念を諸外国の事例や裁判での論争事例をもとに批判的に検討していく(第2回～第7回)。 以上のような教育行政全体の動向・課題を明らかにしたのち、その制度によって支えられている学校経営について「組織マネジメント」及び「問題行動」「子どもの現状」への対応という観点から解説及び討議を行う。特に近年注目されている「学校安全・危機管理」「チームとしての学校」「地域社会との連携」については詳細に検討を行い、学校経営の在り方を考える示唆を提示したい(第8回～第14回)。そして、最後に今後の教育行政と学校経営の在り方について総括的な議論を行い、教員になる学生の教職意識の向上に役立てる(第15回)。 本講義では日本の事例を主に扱うが諸外国に先進的な事例や参考になる事例がある場合には適宜それを紹介するので、日本の現状を批判的に見つめるための視野を身に付けてもらいたい。	◎		○			△	△		
	教育心理学	2	1	1後		到達目標：教育心理学の重要性を理解し、教育領域に有用な心理学的知識とその活用を学ぶ。児童生徒の心の発達プロセス理解と、それに適合した、あるいは促進させる教育心理学的アプローチのあり方を身につける。児童生徒の示す心理的問題や、教育上特別な支援が必要な児童生徒の心理学的理解と、具体的な支援に寄与しうる教育心理学的知識を身につける。 授業内容：この講義では、教育領域における心理学的理論と知識、および教育領域に適用可能な心理学的手法を学ぶ。	◎		○		△	○	△		
	特別支援教育	1	3	2前		到達目標：、発達障害をはじめとする特別な支援を必要とする幼児・児童および生徒の障害特性を理解し、適切な指導方法・支援方法に関する知識を身につけることを目標とする。さらに、特別支援教育の理念とシステムを学び、保護者や他の教員、関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を習得する。 授業内容：特別支援教育の対象であるそれぞれの障害の特性と心理的特徴について理解し、指導内容と具体的な方法を学ぶ。	◎	○			○	◎		△	
	教育課程論	1	1	1後		教育課程の編成と実施などについての基礎的・基本的な知識を修得し、学校や地域の特性と教師の創意・工夫を生かした魅力ある教育課程を編成するための方略について理解する、また、編成した教育課程を実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルについて理解することを目標とする。	○		○	◎		○	△	○	
	道徳教育の理論と方法	2	2	2後		【到達目標】 1) 基礎的知識として、道徳教育の歴史、発達理論、役割と意義を理解する。 2) 道徳の読み物資料の分析の仕方、指導案の書き方を学修し、指導案を作成することができる。 3) 作成した指導案を基に模擬授業を実施する。 4) 道徳科の評価について考え方を理解することができる。 ○授業では、各自のテーマを決め、パワーポイント資料を作成して発表、グループワーク、模擬授業等に取り組む。			◎	○		△	△	◎	
	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	2	2	3前		【到達目標】 1. 特別活動・総合的な学習の時間の意義、目標、特徴などについて理解する。 2. 特別活動の内容を理解し、年間計画、学習指導案を作成することができる。 3. 総合的な学習の時間の課題を決めて単元計画を作成し、その強みと探求の過程について説明することができる。 4. 特別活動・総合的な学習の時間の評価の考え方を理解することができる。 ○授業では、グループワークを取入れたり、単元のテーマを決め、単元計画、学習指導案を作成したりする。			○	△		◎	△	◎	
	教育の方法及び技術(情報通信技術の活用含む)	2	2	3後		情報通信技術を効果的に活用した学習指導や、児童生徒に情報活用能力(情報モラル含む)を育成するための基礎的な知識や技能を身に付ける。 具体的には次のとおりである。 1 情報通信技術を効果的に活用した基礎的な指導法を身に付けている。 2 児童生徒が情報通信機器を活用する上で、基本的な操作の指導を身に付けている。 3 個別な学びと協働的な学びの実現や、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の必要性を理解している。 4 特別な支援を必要とする児童生徒への情報通信技術の必要性和留意点を理解している。 5 校務システムの活用例や情報セキュリティの重要性について理解している。		◎		○		△	△	○	

授業科目 ◆は必修		単位数	配当年次	履修期	主要授業科目	到達目標（授業内容を含めわかりやすく記入）	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8
	生徒・進路指導論	2	3	2後		1 生徒指導の意義や原理を理解することができる。 2 すべての生徒を対象とした学級・学年・学校における生徒指導の進め方を理解することができる。 3 生徒の抱える主な生徒指導上の課題の様態と、養護教諭等の教職員、外部の専門家、関係機関等との校内外の連携も含めた対応の在り方を理解することができる。 4 進路指導・キャリア教育の意義や原理を理解することができる。 5 すべての生徒を対象としたキャリア教育の考え方と指導の在り方を理解することができる。 6 生徒が抱える個別のキャリア教育上の課題に向き合う指導の考え方や在り方を理解することができる。	○			◎		○	△	◎
教職関連科目	教育相談の基礎	2	2	3後		1 教育相談の意義と理論 (1)学校における教育相談の意義と課題を理解することができる。 (2)教育相談に関わる心理学の基礎的な理論・概念を理解することができる。 2 教育相談の方法 (1)生徒の不応や問題行動の意味並びに生徒の発するシグナルに気づき把握する方法を理解することができる。 (2)学校におけるカウンセリングマインドの必要性を理解することができる。 (3)受容・傾聴・共感的理解等のカウンセリングの基礎的な姿勢や技法を理解することができる。 3 教育相談の展開 (1)職種の校務分掌に応じて、生徒並びに保護者に対する教育相談を行う際の目標の立て方や進め方を例示することができる。 (2)いじめ、不登校、虐待、非行等の課題に対する、生徒の発達段階や発達課題に応じた教育相談の進め方を理解することができる。 (3)教育相談の計画の作成や必要な校内体制の整備など、組織的な取組の必要性を理解することができる。 (4)地域の医療・福祉・心理等の専門機関との連携の意義や必要性を理解することができる。	○			◎		○	△	◎
	教育実習指導	1	3	3後		「教育実習の準備と教職意識の明確化」をテーマとして、教育実習に最低限必要な知識・技術の習得と確認、および自分自身の問題点の確認と克服を目標とする。	◎	△	○	◎		○	○	◎
	教育実習Ⅰ	2	4	4前		テーマは「学校における教育実習」であり、到達目標は、教師としての指導力の基礎となる実践的知識・技術の習得である。	◎		○	◎		○	○	◎
	教育実習Ⅱ	2	4	4前		テーマは「学校における教育実習」であり、到達目標は、教師としての指導力の基礎となる実践的知識・技術の習得である。	◎		○	◎		○	○	◎
	教職実践演習(中・高)	2	4	4後		これまでの学生の履修状況をふまえ、教師として必要な知識、技能の補完がテーマである。到達目標は、教師らしくなることである。	○	△	◎	◎		○	○	◎
	介護等体験の研究	1	1	1後		介護等体験の意義・目的の理解と、体験施設の概要や活動内容を把握すること、あわせて教職意識の明確化を図ることを目標とする。 様々な特別支援学校の先生や福祉施設の方に、それぞれの学校や施設の概要やそこでの介護等体験における注意事項等を講義していただく。	◎			◎				△
日本語教員養成に関する科目	日本語指導A	2	2	2前		「日本語教師に必要な基礎的な言語学」をテーマとし、日本語教師として日本語を教えるために必要な基礎的な言語学の知識を理解する。	○		○	◎	△	○		◎
	日本語指導B	2	2	2後		「日本語教育法及び日本語教育プログラムの理解と実践」をテーマとし、日本語語教育に関する基礎理論を理解し、その指導法、教材作成に関する実施方法を習得する。	△		○	◎	○	○	○	◎
	日本語研究A	2	2	2前	○	日本の文化・歴史・芸術などに関する知識や教養を身につける。			◎					
	日本語研究B	2	2	2後		日本の文化・歴史・芸術などに関する知識や教養を身につける。			◎					

授業科目 ◆は必修		単位数	配当 年次	履修期	主要授 業科目	到達目標（授業内容を含めわかりやすく記入）	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8
	日本語教材の研究	2	3	3前		本講義では、日本語教授のためにどのような教材・教具があり、それをどのように授業に活用するかを理解し、修得する。主に、授業レベルに合った教材や教具を的確に選び、これらを活用し、授業計画を立てたり、授業資料を作成したりしながら日本語教授の実践力を身につける。受講生同士が互いに評価しあうことで、自らの可能性を高めていくことができる。また、日本語教育を必要とする人々へのまなざしと行動力を養う。	△	○			△	◎	◎	○
日 本 語 教 員 養 成 に 関 す る 科 目	日本語教育実習	1	4	4前		日本語教員養成コース修了のための必修科目であり、外国人への日本語教授を実践する教壇実習に向け、その教材・教具、授業資料を作成する論理的な思考と実践力を養う。日本語教授者として授業を運営する能力を習得し、そのための知識・技術を身に付け、指導力を修得する。さらに、日本語教育を必要とする人々へのまなざしと行動力を身に付けることができる。	△	○			◎	◎	◎	○